

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・記述式・論述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は従来と同じ3題。マーク式の空欄補充語群選択問題の総数は昨年度の60問から59問に減少したが、記述・論述式の解答個数は1つ増加したため、全体の分量として大きな変化はなかった。昨年度と比べて論述式問題の総字数が減少した一方で、グラフと地図との関連を読み解かせて思考力を試す問題が出題されたため、難易度は全体として変化なしと判断した。

出題の特徴や昨年との変更点

マーク式の空欄補充問題を中心に、下線部対応の記述式と論述式の問題が出題される近年の形式が維持されたが、昨年度と同様に細かい用語の出題は減少傾向にある。従来、史料問題や地図問題は出題されていなかったが、今年度はグラフと地図を組み合わせた問題が出題された。ただし、以前から地名や地域名を問う問題が複数出題されており、地理的な知識が重視されてきた本質は変わらないと言える。

その他トピックス

年号や年代をはじめ数字を問う問題が定番で、昨年度は3問に減少していたが、今年度は5問となり、従来通りに戻った。また、ここ2・3年は第二次世界大戦後の戦後史の出題が少なかったが、今年度は現代史からの出題も多く、現代世界の諸問題とも絡むテーマを扱う商学部の特色がよく現れている。例年、商学部の論述式問題は、字数は少ないものの、受験生にとって意外な視点から歴史に目を向けさせる問題が含まれるのが特徴的であり、今年度もそうした問題が出題された。なお、I問1空欄(37)(38)のMERCOSURは、2025年度直前講習「早慶大世界史テスト」第2講、II問5のオランプ=ド=グージュは、2025年度「早慶レベル模試」、III問1空欄(113)(114)の南北戦争の勃発年は、2025年度直前講習「早慶大世界史テスト」第1講で出題しており、いずれもズバリ!的中であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式 論述式	税制の歴史	問1の空欄(1)(2)の絹は細かい。語群には「綿」もあり、調は綿などで納められたので、語群から絞り込むのも難しい。(13)(14)のティマール(制)は、(11)(12)のイクター(制)との関連で問われており、制度の内容理解がポイント。(23)(24)の虎門寨追加(条約)は、混同しやすい五港(五口)通商章程が語群にないので迷わなかっただろう。(35)(36)のEFTAは「1960年」「ヨーロッパ」という情報のみで解く必要がある。(37)(38)のMERCOSURは、語群から絞り込むことが難しいので覚えておく必要がある。問6は正式名称が問われているので、WTOは不可である。	標準
II	マーク式 記述式 論述式	女性の歴史	女性の歴史は、近年の世界史入試で頻出テーマである。問1の空欄(53)(54)の救貧法は細かいが、難関私大ではしばしば出題される。2025年度夏期講習「早慶大世界史」ではエリザベス1世の事績として救貧法を出題しており、受講者は有利だったと思われる。(75)(76)の1934(年)は、1930年代であることが分かれば語群から絞り込める。(81)(82)のマララ・ユスフザイは細かいが、現在の世界の出来事への関心度を問うていると言えるだろう。	標準

地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 商学部 2/2

III	マーク式 記述式 論述式	蓄財の歴史	<p>問1の空欄(83)(84)の700万(年前)は、2025年度「早慶レベル模試」で関連する問題を出題している。(85)(86)の1万(年前)は、昨年度の商学部入試で、最後の氷期が終わった時期として問われている。(111)(112)の1807(年)については、イギリスにおける奴隷制廃止の1833(年)も語群にあるので間違えないようにしたい。問4.(B)は1800年代初頭から統計に表れ始めるので、アメリカ合衆国が1803年に獲得したミシシッピ川以西ルイジアナに含まれるルイジアナ州、(A)は1840年頃から統計に表れ始めるので、1836年にメキシコから独立を宣言し、1845年にアメリカ合衆国が併合したテキサスに相当するテキサス州と判断できる。(C)(D)は18世紀から統計に表れているが、1791年の時点で(D)の比率は7割を超えており、より開発の古い独立13州に含まれると考えるサウスカロライナ州、(C)は1783年のパリ条約でイギリスから獲得したミシシッピ川以東ルイジアナに含まれるテネシー州とそれぞれ判断するのが妥当である。グラフの記号と地図上の位置との対応は比較的容易だが、州名で解答するのは、テキサス州以外は厳しい。</p>	標準
-----	--------------------	-------	--	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

慶應義塾大学の商学部は、学部の性格にあわせた社会経済史のテーマ問題が出題される。特に、16世紀以降の世界の一体化に関する問題は頻出である。また、20～40字程度の論述問題なども出題され、今年度はグラフ・地図問題も出題された。このような問題に対しては、世界史用語の暗記だけでなく、前後関係や因果関係をしっかりと理解しておくことが必要である。また、現代社会の諸問題を扱った大問が出題されることもあるので、普段から、現在の世界で起こっていることと、世界史の学習内容の関係について、考える習慣も身につけておきたい。